

【事業名】アカモズ(本州繁殖個体群)生息域外保全事業 (愛知県豊橋市) 【団体名】豊橋市(豊橋総合動植物公園)

令和6年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10-6

事業の背景・目的

アカモズ (*Lanius cristatus superciliosus*) は、日本のみで繁殖し、インドネシアで越冬する渡り鳥である。環境省レッドリストで絶滅危惧IB類、種の保存法において国内希少野生動植物種となっている。2022年時点で生息が確認された個体は僅か92つがいのみで、その約半数を占める長野県の個体群は近年の減少率が約40%に達し、このままでは2026年にも地域絶滅することが予測されている。有効な保全策の確立が急務であるが、減少要因は未だに不明であり、生息域内における対策のみで絶滅を回避できる可能性は極めて低い。そのため、緊急的に生息域外保全を開始し、保険個体群を形成することが必要とされている。



事業の内容

近年生息数が激減し令和3年に国内希少野生動物種に指定された国内固有亜種であるアカモズ (*Lanius cristatus superciliosus*) の生息域外保全を実施する。長野県内において繁殖するアカモズの抱卵放棄された卵や、落下した巣などで発見された傷病雛を保護収容し、協力機関(人間環境大学等)によって豊橋総合動植物公園へ移送し、孵卵・育雛を試みる。また、卵が孵化し雛の飼育が成功した場合には、これらを始祖とする生息域外個体群の形成を目指す。

令和5年度

事業① 近縁種モズを用いた保護シミュレーション事業

・アカモズの移送・飼養繁殖技術確立のため、同所的に繁殖しているモズを対象に産卵期の卵を採卵・移送、孵卵・育雛を実施、モズ科鳥類の飼育繁殖技術及び野生下への放鳥技術検討等に活用する。

事業② アカモズの採卵による飼育個体群形成事業

・アカモズ2巣から採卵し飼育下への個体導入のため孵卵・育雛を試みる。孵化・飼育が成功した場合、将来的な野生復帰を目指し、これらを始祖とする飼育個体群形成を目指す。

事業③ アカモズの放棄卵・雛の保護事業

・抱卵放棄された卵や、落下した巣などで発見された傷病雛を保護収容した際に、協力機関(人間環境大学等)によって豊橋総合動植物公園へこれを送り、孵卵・育雛を試みる。

事業④ 遺伝子試料の管理事業

・生息域外保全の試みの中で得られた個体の組織、細胞及びDNAなどを野外個体群の遺伝的状況推察等の研究に活用するために、良好な状態で保存を行う。

令和6年度

事業⑤ 飼育下繁殖による飼育個体群形成事業

・前年に確保できた個体を用いて飼育下繁殖を実施。クラッチごとに人工繁殖、自然繁殖を行うことも検討し、少数のペアから多数の雛の育成を試みる。

事業⑥ 普及啓発事業

・得られた知見を基に、掲示物の作成や催しを開催。アカモズが置かれている現状や保全活動などについて周知し啓発する。

事業⑦ 野生復帰実施計画策定事業

・生息域外個体群の確保、野生復帰技術の集積、生息地環境の評価と整備、実施体制整備について検討を進め、飼育下で誕生した個体の野生復帰実施計画を策定する。

3年目

事業⑦ 野生復帰実施計画策定事業
・前年策定の計画に基づき、近縁種モズを用いた野生復帰を試行。アカモズの野生復帰に向けた手順を確立する。

得られた成果

放棄卵を用い人工孵卵育雛に取り組み11羽の育雛に成功、人工孵卵育雛の技術を概ね確立した

【事業①】アカモズ輸送のシミュレーションとして成鳥の移送を実施。

【事業③】放棄卵19卵採取→13卵人工孵化に成功→11羽人工育雛に成功(11羽生存)

人工孵卵育雛の技術を概ね確立：孵化率(46.4→68.4%)、成育率(巣立ち69.2→84.6%)

【事業④】中止卵6卵、雛2羽、成鳥3羽の遺伝子材料を採取・保存。

本年度成育11羽により集団遺伝学的解析を実施。

【事業⑤】春にペアリングをスムーズに実施できるよう、屋外施設での越冬試験を実施した。危険分散のため、成育個体2羽を、北海道の野生生物生息域外保全センターへ輸送。(昨年孵化の雄が死亡したため、令和6年度は飼育下でのペアリングまで至らず)



【事業⑥】保全推進シンポジウム開催(8/18、会場参加約60名、Web視聴約50名)

繁殖地の住民対象の視察会。園内にてアカモズ観察とガイドを実施(11/17、約20名)。バードエリアにて、アカモズの状況や保全について掲示中。

【事業⑦】令和7年3月1日付で「長野県におけるアカモズの野生復帰実施計画」を策定した。

【これから】

令和6年度に成育した個体を用い飼育下繁殖に取り組み他の園館との協力体制の整備・推進。

